

モナッシュ大学ミニシンポジウム

2013年1月18日(金)～21日(月) モナッシュ大学クレイトンキャンパス(オーストラリア・メルボルン)

海外連携機関であるモナッシュ大学を1期生6名が訪問し、合同でミニシンポジウムを開催しました。



▲発表した学生たち。日本からは矢部さん、若林さん、徳江さん、加藤さん、佐々田さん、松田さん

導入としてProf. M. Hearnからグリーン・ケミストリーの紹介と持続可能社会への戦略について、Prof. R. Jackson、A/Prof. T. Pattiからは資源の有効活用や低環境負荷を目指した合成技術に関わる講演がありました。Dr. K. Saito、Dr. M. Potdar、Dr. R. Boysen、Dr. A. Tanksale 4名の若手教員らによるワークショップでは、環境リスク評価、E-ファクター(省資源性を評価する指標)や原子経済等の解説や成果の紹介があり、その内容について参加者全員で白熱した議論を交わしました。

講義以外の時間では、近い研究テーマに従事する学生の案内で研究室の装置や分析機器を見学したり、大学寮へ宿泊して異なる文化を持つ寮生らの生活に触れたり、メルボルン近郊の街を散策してモナッシュ大学の学生らと交流を深めました。



▲ミニシンポジウム開会の様子

最終日には双方の学生が自身の研究について10分間のプレゼンテーションおよび質疑応答しました。各々の学生が英語に苦心しつつも両大学の教授や講師陣・学生らとの討論を楽しみ、かつ真剣に取り組みました。

次世代エネルギー関連施設見学演習

2013年2月26日(火)～27日(水) 沖縄県宮古島



▲バガス発電と蒸気利用施設の見学

次世代エネルギーの実装に向けた取り組みについて学ぶため、宮古市役所ご協力のもと、沖縄県宮古島の関連施設の見学演習に、1期生10名が参加しました。

プログラム担当者の一人である林泰弘教授が実証研究に参画しているメガソーラー発電所や、バイオエタノール製造施設など、

再生可能エネルギー利用の実証実験設備を見学し、資源循環型の低炭素社会システム形成への展望、島特有の課題や実状について学びました。

太陽電池の耐久性やエネルギー需給マネジメントの難しさなど、自らの専門分野を新しい切り口で捉える機会となりました。



▲サデフネ風力1・2号機の見学

【訪問先一覧】

- メガソーラー実証研究設備 ●沖縄電力宮古第2発電所 ●バイオエタノール製造施設 ●前浜ポンプ場(ポンプによる太陽光の変動吸収)
- 米間島(再生可能エネルギー 100%自活実証事業) ●製糖工場(バガス発電と蒸気利用) ●地下ダム資料館(全島エネルギーマネジメントシステム実証事業)
- 多良川(メタン発酵装置) ●宮古市役所(エネルギー政策、意見交換)